いわちゃんポスト

千葉県議会議員
岩井やすのり
自民党
1970 年生まれ 53 歳 専大卒・早大院修了 3 期目現職（印西市・栄町選挙区）
栄町安食台 2-26-23-202 fax0476-36-7802 mail@iwai-y.jp

房総のむらを地域活性化の柱に
博物館法改正

今年４月より施行される改正博物館法。地域活力の向上への取り組みが盛り込まれたことにより、地域の体験型博物館である房総のむらには、これまで以上の期待がかかっています。

●改正博物館法「地域の活力向上に寄与」

歴史、民俗、美術や自然、科学など、様々な分野の資料を集め、保存、公開する博物館。全国にある約５７００館の多くは公立の施設で、その土地の文化や自然を伝える役割を果たしています。しかし、日本博物館協会が行った調査によれば、「専任の学芸系職員を常勤で雇用している館は全体の４９％」「資料購入予算のない館は全体の６０％」などと、博物館の現状は厳しく、さらにコロナ禍の影響により利用者数の減少にも直面してきました。

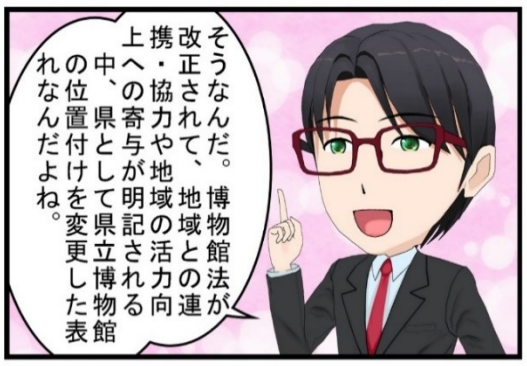
そのような中、博物館に求められる業務は、従来からの資料収集、保存、調査研究、展示等に加えて、ＳＮＳなどを使った情報発信やデジタルアーカイブ、観光・まちづくりへの貢献など、さまざまな活動が加わってきています。４月より改正、施行される博物館法はこの流れを汲んだもので、特に第３条において、「地域との連携・協力により文化観光その他の活動を図り、地域の活力の向上に寄与する」ことが努力義務として明記されることとなったのです。

●９月議会での岩井の質問に答弁が一変

さて、栄町では、県立房総のむらを地域おこしを行うための起爆剤と捉えてきました。県に対しては、園内にある旧学習院初等科正堂でのコンサートなどイベントの開催や開館時間の延長、園内飲食施設や宿泊施設の設置、閉館時間帯の駐車場の開放など様々要望を上げてきたところです。しかし県執行部の腰は重く、決まって「房総のむらは教育施設ですので…」と断られてきたのです。

そんな中での博物館法の改正。博物館は地域と連携、協力して、地域の活力向上に寄与することが努力義務となるわけで、これまでとは異なる県の姿勢が期待されます。すでに、県立博物館の管轄は県教育委員会から商工労働部に移行。昨年の９月議会の岩井の質問に対し、「地元市町や観光事業者と連携」「夜間体験メニューの検討」「歴史的建造物や屋外空間を活用したコンサート・伝統文化芸能の公演」について前向きな答弁を得るに至っています。

近年は人口増減について社会増（流出数より流入数が上回ること）となり、明るい兆しも見えてきている栄町。特色あるまちづくりを実現させるにあたり、地元選出の県議会議員として、県立房総のむらの「大きな変化」を求めてまいります。



竜腹寺交差点でまたも死亡事故 信号設置求める声届かず

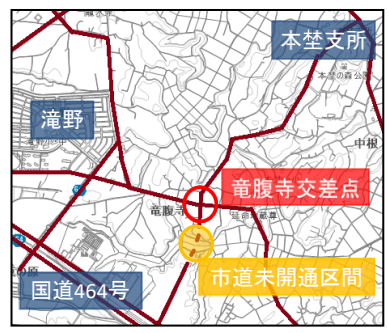
●見通しが悪く、スピード超過車両多し

竜腹寺 554-1 先交差点（以下、竜腹寺交差点）は、県道印西佐倉線と市道下池三度山線が交わる十字路交差点。同所には、県道印西佐倉線を横断する地域唯一の横断歩道が設置されていること、旧本埜村中心部にあたる笠神、中根地区などから印西牧の原駅や国道 464 号方面に向かう通り道となっていることから、地域住民が多く利用する要衝交差点となっています。

しかし、本埜支所方面から南下してきた歩行者や自動車にとって、同交差点での右方向の見通しが著しく悪い上、県道を走る車両の多くがスピードを出し過ぎている状況。車両の右左折時等にヒヤッとするのは日常茶飯事です。

●平成22年にも四輪車と歩行者の死亡事故

実は、竜腹寺交差点では平成 22 年に四輪車と歩と歩行者による死亡事故が発生しており、地域では知られた危険な交差点。地元住民からは何度となく信号機の設置要望が上げられ、また、岩井自身も令和になってから、県議会にて竜腹寺交差点のを問題を取り上げ、信号機設置を求めてきたところでした。そんな中、同交差点で再びの死亡事故が発生してしたのが今年１月。交差点左から来た四輪車を避けようとした二輪車が転倒し、運転していた 50 代男性が亡くなるという痛ましい事故です。



交差点を通行する誰もが危険とわかっており、また、信号機設置等の安全対策を繰り返し求めてきただけに、防ぐことができた死亡事故ではないかとの声が上がるのも当然です。

●「今度こそ」との思いで信号設置を実現させたい

二度までも発生した死亡事故。今回の事故を契機に、同交差点に何とか信号機を設置することができないかと考えています。地元住民からも要望の声が上がっており、「今度こそ」との思いで信号機設置を実現させてまいります。

相次ぐ要望の声　印西牧の原駅へのアクセス特急停車

周辺の人口増が進む印西牧の原駅。「特急への乗り換えが必要で不便」等の利用者からの声を受け、同駅へのアクセス特急の停車を働きかけています。

●停車するのは北総特急上り5本、下り2本のみ

昨年 10 月に鉄道運賃が値下げとなり、特に子どもが通学利用する家庭の負担軽減が実現した北総線。しかし、印西牧の原駅を通勤等で利用する市民からは、アクセス特急が停車しないことについての不便の声が上がっています。

印西牧の原駅に停車するのは、普通電車と北総鉄道・特急電車の上り 5 本、下り 2 本のみ。朝夕を問わず運行されるアクセス特急が停車しないため、「特急電車への乗り換えが必要で不便」「アクセス特急は停まらないのか」との声は少なくありません。

実は、同駅へのアクセス特急停車については、4 年前に同列車を運行する京成電鉄社に打診。しかしその際には、「乗車人員がそう多くない」「アクセス特急停車についての要望がほとんどない」等の理由から、「同駅へのアクセス特急停車は考えていない」との回答となっているのです。

●下りの通勤時間帯だけでも実現させたい

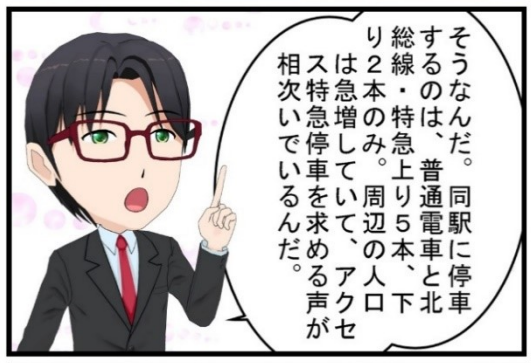
しかし、昨年末の牧の原地区の人口は 2 万 2 千人余りと、ここ 10 年で 1 万 2 千人も増加。北総線各駅の中では、東松戸駅に次いで 4 番目の多さとなっており、乗車人員の要件は満たされつつあります。地元選出の県議会議員として、

印西牧の原駅へのアクセス特急停車について
京成電鉄社からの回答（令和元年）

・アクセス特急の停車駅はその速達性を維持しつつ、乗降客数や他線への乗換え等を考慮し決定している
・同駅の乗車人員は、千葉ニュータウン中央駅等と比較しそう多くない
・印旛日本医大駅は、同駅から上り方面へと向かう他列車への乗換え駅であるため、アクセス特急の停車駅となっている
・白井駅等にはアクセス特急の停車要望があるものの、印西牧の原駅についての要望はほとんどない
・以上のことから、現在は印西牧の原駅へのアクセス特急の停車は考えていない

改めて京成電鉄社への要望活動を行っているところですが、「内容を絞った」「地域を挙げた」要望にしていく必要があると思っています。
内容については、アクセス特急の全面停車が理想ですが、都心⇔成田空港の速達性確保を考えると難しく、まずは「通勤時間帯の下りアクセス特急停車」や「下り北総線特急の増発」というのが現実的。また、「地域を挙げた」という点では、牧の原地区住民の声をまとめ上げた上で、自治体を巻き込んだ要望にしていきたいところです。

2 月県議会・総合企画常任委員会にてこの問題を取り上げるとともに、牧の原地区の意見集約を行った上で、地域として要望が上げられるよう、時間をかけた働きかけを行ってまいります。



倒木による死亡事故も　自治会の指摘で枯れ松を一斉伐採

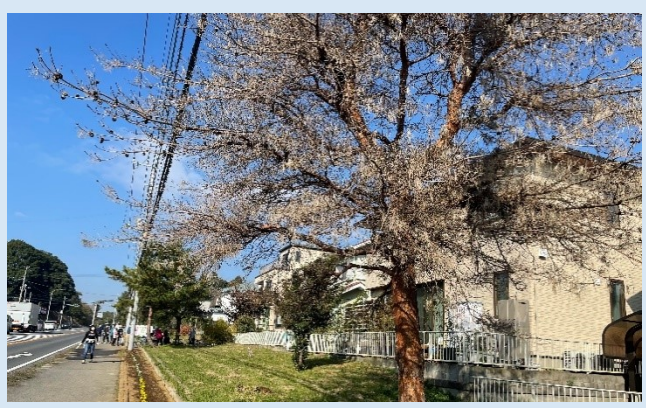
栄町を東西に通る県道成田安食線。沿道の松が相次いで枯死する中、倒木を危惧した竜角寺台自治会が県土木事務所に要請し、12 月に一斉伐採が行われました。

●佐賀県内では枯れ松倒木による死亡事故

松枯れが発生したのは、県道成田安食線の栄町・竜角寺台付近。沿道の松の多くが枯れてしまい、景観面と安全面で問題になっていました。

松枯れは夏から秋にかけて見られ、「マツノマダラカミキリ」に寄生する「マツノザイセンチュウ」の侵入により引き起こされるもの。水を吸い上げる管を詰まらせ、葉が茶褐色に変色。一度症状が現れると回復は困難で、被害が他の木に広がる前に伐採する必要があります。

地元住民が特に心配したのは、枯れ松の倒木による巻き込み事故。2019 年には佐賀県内の県道で、沿道の枯れ松が走行中の軽自動車に覆いかぶさるように倒れ、助手席に座っていた児童が亡くなるという痛ましい事故が発生しており、決して杞憂などではありません。



歩道に面していた枯れ松など一斉伐採

●対応遅れたものの、12月に伐採を実施

この枯れ松問題については竜角寺台自治会でも取り上げられ、県に対策を要請。11 月末になっても動きが見られなかったことから岩井に話があり、同事務所に確認したところ、伐採準備を整えているとのことで、12 月末までに枯れ松の伐採が行われたものです。

●お気づきの問題箇所ありましたらご連絡を

さて、県道はもちろん、多くの国道は県の管理。枯れ松の他、車道にはみ出した雑木、雑草なども走行する車両の大きな妨げになる恐れがあります。日頃から利用する道路などでお気づきの問題箇所がありましたら、気兼ねなくご連絡ください。

ご連絡は mail@iwai-y.jp 、または以下の SNS 等よりご連絡ください。

twitter　公式 HP　LINE 公式アカウント　facebook